

「達成度テスト（発展レベル）（仮称）」に係る論点について

◆目的

- 「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）」の構想（高等学校段階における基礎的な学習の達成度の把握等）を踏まえ、これからの大学教育を受けるために必要な「主体的に学び考える力」等の能力を測ることを主たる目的とする

◆対象者

- 大学入学志願者を主たる対象とするが、大学で学ぶ力を自ら確認したい者の受験を可能にする方向で検討

◆内容

- 知識・技能に加え、知識・技能の活用力（思考力、判断力、表現力等）や高校生活全般を通じて育成される汎用的能力等の測定を重視
- 活用力や汎用的能力等を測定する観点から「合教科・科目型」や「総合型」の導入に向けて専門的に検討
- 「教科型」の出題については、「達成度テスト（基礎レベル）（仮称）」との関係や教科・科目数等を勘案しつつ検討

→「合教科・科目型」、「総合型」、「教科型」といった問題のタイプの採用のあり方（設問単位、全体の構成・枠組み、比重等）についてどのように考えるか。

◆実施方法

- 記述式やコンピュータによる出題・回答の方式（CBT方式）の導入に向けて専門的に検討

→記述式や CBT 方式について、確認したい能力との関係、技術的な課題、導入可能な時期等を踏まえつつ、その採用についてどのように考えるか（IRT の採用との関連も含む）。

- 年度内複数回実施については、高等学校教育への影響や試験実施体制等を考慮しつつ検討

→年間の実施回数、実施時期、受験可能とする学年等についてどのように考えるか（記述式の採用や CBT 方式への移行、IRT の採用の可能性との関連も含む）。

○知識偏重の一点刻みの選抜からの脱却の観点から、段階別や標準化点数、百分位等による成績提供に向けて専門的に検討

→各大学における利用のあり方を踏まえた望ましい成績提供方式についてどのように考えるか（記述式の採用や CBT 方式への移行、IRT の採用の可能性との関連も含む）。